

第4回栃木県立黒羽高等学校 学校運営協議会 議事録

日時 令和5年3月16日(火) 13:30~15:00

場所 栃木県立黒羽高等学校 図書館

1. 開会 教頭
2. 学校長挨拶 校長
3. 学校運営協議会 会長挨拶 会長
4. 議事

(1) 学校からの説明・意見交換

- ① 部活動活動報告について
- ② 卒業生の進路状況について
- ③ 学校評価アンケート結果について
- ④ 令和5年度入学者選抜について

【上記への意見・質問事項】

① (委員) 生徒数が減少する中、部活動数や部員数はどうなっているか。

→ (教諭) 今年度から1年生の部活動加入は任意となり、部員数は現状維持または減少傾向にある。

(委員) 黒羽太鼓部は本校をアピールする重要な部だが、部員数が減っていると聞く。太鼓部を活性化できる方策はないものか。ぜひ考えていただきたい。

教員の働き方改革を推進させなければならぬ一方で、本校の魅力化・特色化には部活動の活性化が欠かせないと思う。部活動の推進をぜひ検討してほしい。

(委員) 商工会も後押しするので、太鼓部も各種催しにぜひ参加していただきたい。

→ (教頭) 中学校や他県では部活動の地域移行や活動時間の短縮が進んでいる一方で、部活動に加入する意義もある。今年度から部活動は全員加入でなく任意加入にしたが、正式入部の前に体験入部を促進するところみを行った結果、部員はそこまで減らなかつた。これを受けて、次年度も部活動を推進する取り組みを検討していきたいと考えている

② (委員) 「地元」とは栃木県内と解釈してよいか。

→ (教諭) 栃木県内と解釈してよい。

③ (委員) 「生徒指導が適切である」の評価が高いが、これは生徒指導が緩いから適切なのか、生徒指導が厳しい中でもしっかり取り組んでいるから適切なのか。

→ (主幹) 一概にどちらとも言えることはないが、実態としては生徒から校則が厳しいとの指摘があり、現在校則の改定に向けて検討を始めているところである。

(委員) 図書館の利用率について、上級学校では図書館の存在目的は変わってきており、IT室として他の教育機関にアクセスして情報を得るために、特に学生にとっては学習室として図書館を利用しているようである。高校ではどうだろうか。

→ (校長・教頭) かねてから図書館を学習室として放課後に開放しており、一時はよく利用する生徒がいたが、最近では利用者が少なくなっている。朝の読書の時間と関連して図書の貸し出しを推進するなど、利用率を上げるなどの方策を検討している。

(委員) 保護者の回答率が約40%と少ない。以前は紙面によるアンケートだった(現在はMicrosoft Formsを用いた方法に変更している)が、提出率に変化があったか。また、「PTA行事に参加したい」の肯定的な回答が少なく、PTAとして保護者への啓発を進めていきたいと考えている。

→(主幹) インターネットでの回答が難しい場合は紙面による提出も可能で、実際に数名は紙面で提出している。アンケートの回答をもっと促したかった。

→(教頭) かつて回答率が高かったときは、アンケートに記名を求めていたが、アンケートの性質上記名を不要とする形に変更した。それが提出率の減少につながっているのかもしれない。

(委員) 感染症対策について、本校でのマスク着用のルールはどうか。

→(教頭) 文部科学省の方針から、3月までは従来通りの対応を要請されている。4月以降は社会の動きに応じてマスクの着用を求めないことになるが、感染リスクの高い活動はマスクをするようにする。

(委員) 教職員アンケートの「特例校化に対応した体制整備」について、これは教務に関わるものと考えてよいか

→(主幹) 明確に定義したものではないので、それを特定することはできない

④(主幹) 定員割れについて教職員にアンケートを行い、現在集計中である。その一部を挙げると、

【定員割れの原因】

- ・特色選抜を[1回多く入試に挑戦できる選抜]ととらえ、チャレンジした受検生が多かったのではないか
- ・資格要件を若干変更した影響なのか、資格要件を満たしていないと解釈して出願を避けた受検生がいたのではないか
- ・交通の便や進学実績等で他校に華やかな印象を持ち、他校に出願が流れた

【出願倍率の向上のための方策】

- ・本校生徒が入学後に成長したことをアピール
- ・こころみ学習や相撲部、黒羽太鼓部、通級指導など、本校独自の取り組みをアピールする
- ・部活動などで小学校や中学校と交流する機会を設ける
- ・ホームページ係をつけてホームページを毎日更新
- ・校則を生徒とともに変える

(委員) 本校の目指すべき方向性がこのアンケートの中にあるように見える。アンケートの結果を次回の学校運営協議会で報告してほしい。

(委員) ホームページの毎日更新は大変で、明確に仕事として担当者と更新頻度を設定しないと続かない。

→(教頭) 今年度は頻繁にホームページを更新している部活動顧問もいた。担当と頻度を決めれば実現できると思うので、その体制を検討したい。

(委員) やはりtwitterが情報発信に向いている。那須看護専門学校ではtwitterの書き込みを5,000回見てもらっていることもある。また、ホームページの校長案内

も、文面よりも動画のほうが見てもらいやすい。

(委員) 手軽さは twitter のほうが圧倒的。YouTube は動画編集などで手間がかかる。また、ホームページで掲載した内容はそのまま twitter に載せることもできる。手軽であるがゆえに最初に運営をよく検討することが大切。

→ (教頭) twitter に関しては、県と協議しているが、担当者や発信媒体、発信方法まで検討しているがうまく進められてはいない。まずは取り組みやすいところ

(YouTube を利用した卒業式や体育祭のライブ配信など) から始めている。他校の SNS の運用について問い合わせているが、非公式のものであり、公式で運用しているものは見当たらない。ただし、学校案内に URL を掲載して行事の動画を見せられるようにしているところもあるようだ。

(2) 令和 5 年度学校運営に関する基本的な方針について → 承認

(委員) 「あいさつ日本一を目指して」については、ぜひ推し進めてほしい

(委員) あいさつについては、地元の小学校、中学校、高校で連携して取り組んでほしい

(3) 学校の魅力化・特色化についての意見交換

(委員) 地元の催事での発表に、太鼓部も加わってほしい。また、俳句会も催しているのので、生徒に参加してもらいたい。

(委員) 通級指導について、中学校で通級をアピールしてみてもどうか。また、県教委と調整して人材配置を検討してみてもよいのではないか

→ (校長) 県と連携して進めている。通級指導は県内の県立高校でも本校のみ取り組んでいるものであるため、これをアピールできる体制を整えたい

(4) 令和 5 年度学校運営協議会の委員について

令和 4 (2022) 年度で任期は満了になる。次年度もぜひ継続してほしいが、都合が悪い場合は事務局に連絡し、後任者を推薦してほしい。

(5) 次回日程について

5 月から 6 月の間で調整中。決まり次第通知する予定。

5. 閉会